

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590800355		
法人名	有限会社 ふあいん		
事業所名	グループホーム 大花		
所在地	大仙市大花町5-26		
自己評価作成日	令和2年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍において外出や行動範囲が制限される中でも「家庭的な環境で安心して暮らしてほしい～想いを受け止め温かく寄り添います～」の理念をもとに、利用者の想いや笑顔のためにホーム内で行える行事に力をいれ、利用者と職員と一緒に笑顔で過ごせるようにと職員全員が努めております。また利用者が自分のペースで安心して過ごせるように、日々の何気ない会話や表情、コミュニケーションを通して利用者の想いを知り、その思いに寄り添った支援を心掛けております。利用者、家族、職員が共に支え合えるような関係性を大切に、安心して暮らしていただける事業所づくりに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内には、空気清浄機が設置されているほか、掃除を1日3回実施するなど衛生管理が徹底されている。
壁面が花をイメージした配色になっていて、ホールに置かれているソファなどで思い思いに過ごし、落ち着いた生活が送れる環境となっている。住宅街に開設された3年目の事業所であるが、「認知症のための何でも相談所」や「認知症カフェ」等の事業を展開し、地域の方々に認知症を理解して貰うための取り組みが行われている。
コロナ禍の影響で外出する機会が少なくなったことに対して、室内で楽しめる行事を数多く計画し楽しんで貰えるよう努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が意見を出し合って決めた理念をホールに掲げ、迷ったり悩んだりした時には理念に立ち返り考えケアにつなげている。	利用者との関わりの中で困ったとき等、いつでも目にすることが出来る場所に理念が掲示されている。家庭的な雰囲気の中で、安心して暮らすことが出来るよう、思いを受け止め寄り添った支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体が住宅街にある為、日頃から近所の方々と挨拶を交わしたり、地域の話題や介護サービスについて情報を交換している。	新興住宅地に事業所を開所してから日が浅く、コロナウイルス等の影響により、十分な関係の構築は出来てないが、通勤や通学する地域の方々に積極的に挨拶し交流を深める努力をしている。今後、保育園との交流も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議で認知症や介護サービスについての情報を伝えたり、認知症なんでも相談所に登録しいつでも気軽に相談していただけるような環境づくりに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長さんや地域住民の方からの意見をいただき、運営や支援に反映できるように努めている。また研修や活動内容を写真を使用し報告している。また参加できない委員の方には電話で意見や要望を聞き取っている。	コロナ禍にあるが、委員会を開催し直に情報交換を行っている。地域の方からの情報を聞き、積極的に運営に活かしている。また、委員が出席出来ないときには、電話等で意見を聞くようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度的に不明な点や詳しく聞きたい事を尋ねられる関係づくりに努めている。また、現在では難しいが市町村で主催の研修があった際には積極的に参加し、協力関係を構築できるように取り組んでいる。	家族から介護保険制度や健康保険等で質問があり、分からない事があれば問い合わせをして家族に伝えている。市主催の研修についても都度情報提供していただき、参加するなどして関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の観点から夜間のみ施錠は行っているが、身体拘束や不適切ケアの勉強会を年に2回行い職員は正しい認識をもち、日頃から声をかけ合ってケアに取り組んでいる。	委員会を設置しているほか、年2回勉強会を行い、職員からケアに関する気づきを書いてもらい、不適切なケアを無くす取り組みが行われている。また、声かけなどで不適切な場面が見られた時には、その場で注意するよう心掛けており、意識改革に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設立し、年に4回の委員会を開催している。また、虐待に対する理解はもちろん職員が県で主催される虐待防止の研修に参加し得た知識を社内研修として他の職員に伝え、職員全員が共通の知識をもてるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまで利用された方はいませんが、日常生活自立支援事業や、成年後見制度についての資料を職員間で確認し必要時に活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定等の際にはその都度疑問点や不安等ないか尋ねている。また契約書や重要事項説明書を利用者や家族と読み合わせる際には、わかりやすい説明を心掛け理解と納得を得られるように図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でいただいた意見は議事録を通して職員に周知している。また、カンファレンスや申し送りノートを通して、面会や受診の際に利用者や家族からいただいた意見や要望を共有し、ケアや運営に反映できるように努めている。	日頃の利用者とのコミュニケーションから、食事に関することや外出等について希望を聞いているほか、家族からは面会の際や電話で確認し、情報を職員間で共有しケアや運営に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に必ず1回の主任会議を行い、職員の意見や提案を聞き取っている。またそこででた意見や提案は月に1回行っている管理者会議で伝え、運営に反映できるように努めている。	定期的に行われる面談で、職員から仕事や生活面について話す機会があり、出た意見や提案は管理者会議で検討され、改善に向けた取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを大切に、職員一人一人の思いを把握できるように努めている。また、代表者は複数の事業所を抱える中でも各事業所にこまめに顔をだし話しやすい関係性づくりに努めているほか、定期的に職員と面談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にとって必要と思われる研修の情報提供を行ったり、時間の確保に努めている。また、事業所で必要と判断し受講を勧めた研修については、研修参加費を事業所で負担するような仕組みを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者が所属している地域密着型事業者連絡会の研修会や活動に職員も積極的に参加するようにはしているが、現在はコロナウイルスの影響でほとんど行われておらず電話での情報交換になっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前の面談の段階で、困りごとや不安について聞き取りを行っている。また本人だけでなく家族からも情報を得て不安や困りごとの解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の思いや要望の聞き取りを行っているが、サービス導入後も面会や電話での近況報告の際に困りごとや疑問等ないか傾聴している。また毎月本人の写真を郵送し様子を知っていただく事で、少しでも安心していただけるように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもある家庭的な雰囲気を大切に、できる限り一人一人に役割をもっていただき、職員と一緒に家事作業やレクリエーションを行うことで良い関係を築きながら生活している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの影響でなかなか面会していただけない日が続いたが、電話で近況を報告したりオンラインでの面会も可能にしている。また可能な限りの受診の協力もいただき、入居後も家族との関係を絶やさないように努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に買い物に出かけていたスーパーに職員と買い物に行き馴染みの方とお話される事や、知人やご親戚の面会も特に制限は設けていない。本人が行きたい場所にも可能な限りお連れできるように努めている。 (現在はコロナウイルスの影響で面会制限や、外出の頻度が減少している。)	馴染みのスーパーに出かけたり、親戚や知人が面会に来てくれるなど、交流が行われていた。コロナ禍のため外出を控えているが、親戚や知人と電話等を利用して交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流を大切にできるように職員が関わり過ぎないように配慮している。また職員が仲介しながら、共に支え合え、声をかけ合える関係性が築けるような支援に努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了された後も、転居先の施設等に聞き取りを行い状況の把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や、日常の何気ない会話、家族からの情報をもとに本人の思いの把握に努めている。意向の把握が困難な場合にも、表情や行動など些細な情報を職員が共有し、本人の希望や意向を検討している。	家族からの情報や日常生活でのさり気ない会話から聞き取りしている。伝えることが難しいケースについては、表情等で思いをくみ取り、職員間で情報を共有しながら、思いや意向が叶えられるよう話し合いを行い検討している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスを利用される前にご本人からはもちろん、家族、ケアマネジャー等から生きがいや楽しみ、これまでの暮らし方を伺い、入居後もその人らしく生活が送れるように努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や申し送りノートを活用して、変化や現状について情報共有できるようにしている。また、朝の申し送りやカンファレンスの際にも、一人一人のケアについて確認し、職員間で共有している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアについてはカンファレンスや、申し送りを通して意見を出し合っている。また職員が担当につくことで日々の細かな変化や、本人の様子を把握し、介護計画の作成に反映させている。本人の意向の確認はもちろん、遠方にいる家族に対しても電話で意見を聞いている。	日常生活の中で利用者に変化が見られたときには、カンファレンスや申し送りノートに記録した情報を基に話し合いを行い、利用者、家族からの要望を確認した上で介護計画が作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個人記録に記載、ケアの実践については介護計画に基づいたチェック欄を設けて実践の状況をわかりやすく記載し、職員間で共有、介護計画の見直しの際に活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市町村からの情報や、運営推進会議を通して地域の方から情報を得ることで、地域資源の把握に努め、一人一人の支援に役立てる事ができるように努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にできるだけ添えるようにしている。また体調の不良の際や本人の抱えている病気についても、かかりつけ医はもちろん訪問看護とも情報共有し連携を取り合って支援している。	入所前に受診していたかかりつけ医を受診している。ホームで付き添い、受診結果については、都度家族に報告している。週1回訪問看護があり、情報を共有しながら健康管理を行っている。薬局については、健康状態の聞き取りや服用方法について説明してくれるなど連携が図られている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護を受け、一人一人の心身の変化について相談し助言を受けている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人が安心して治療を受けられるように、普段の暮らし方等を医療機関へ情報提供している。また入院中も電話等で病棟看護師に聞き取りを行い状態把握に努め、職員間で共有している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で、重度化や終末期についての事業所の方針を伝えると同時に、本人やご家族の意向もききとり、可能な限りの支援に努めている。	入所の契約前に事業所の方針を説明し、可能な限り希望に添えるよう努力している。健康状態に変化が見られ対応が困難となった場合は、家族に状況を説明し施設移行も含めた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルは常に職員が確認できる場所においている。また今年度はコロナウイルスの影響で消防隊員の指導のものの救命講習は実施できなかったが、カンファレンスでマニュアルをもとに手当てや対応を再確認している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施している。また、様々な災害に合わせたマニュアルを作成し、職員全員が適切な行動をとれるように備えている。また備品の保管場所の工夫や、事業所のある地域での災害の様子について、運営推進会議等で地域の方から情報をえている。	年2回訓練を実施し、うち1回は消防署の指導のもとに実施している。マニュアルについては、様々な災害を想定して作成されている。開所して日が浅いため、地域住民から事業所周辺の状況を聞き、避難訓練計画の参考にしている。	災害発生時には、近所の地域住民の方に協力を依頼しているが、具体的にどのようなことを協力してもらうのかを明確にして依頼し、協力体制が構築されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の立場に立ち、自分ならどうして欲しいのかを職員は常に意識し支援している。プライバシーにかかわる事などは、伝える場所や声の大きさ、伝え方の工夫を行っている。	日常生活の関わりの中で、プライバシーや人格の尊重に配慮しながら相手の立場に立って考え、羞恥心を損なうようなことがないよう心がけ支援している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話を通して、本人の希望や思いを引き出せるように努めている。また日常の些細な行動も本人の意見を聞きながら、自己決定できるように働きかけている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその日の気分や体調に合わせて生活できるように、本人の思いを傾聴し職員間で共有している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の着替えを本人と一緒に選んだり、床屋をする際に本人の希望に添った髪型にしてもらう等、その人らしいおしゃれができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせた献立や、この地域特有の料理やおやつについて利用者と一緒に考え、教えていただき食べることを楽しめるような働きかけを行っている。また味見をしていただいたり、実際に味付けをお願いしたりと、一緒に準備や片づけも行っている。	利用者の希望を聞き、献立や行事食に取り入れている。また誕生日にはケーキ作りも一緒にいき、楽しみながら祝うようにしている。盛り付けや片付け等利用者も一緒になって準備することで、生きがいに繋がっている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の希望に添いながらも、栄養バランスや水分量が不足にならないように、一人一人に合わせた工夫や支援を行っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは皆さんにしているが、声掛けや誘導のタイミングは一人一人に合わせて行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員はオムツやパットを使用する事に対して慎重になり、できるだけトイレで排泄できるような支援に努め、チェックシートを用いての排泄パターンの把握や、時間での誘導を行っている。	チェックシートを活用し、職員間で情報を共有するとともに、利用者の様子を見ながらトイレ誘導を行い、可能な限りパットや紙おむつを使わない支援が行われている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便の間隔や特徴を把握したうえで、食事の工夫(乳製品、食物繊維、油分、水分を意識)や、腹部マッサージに取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間や曜日はなるべく本人の希望に添って支援している。また体調面で入浴ができない方に対しても、清拭や足浴を行って気分転換や清潔保持ができるよう支援している。	一人ひとりから希望を聞き入浴支援している。入浴を拒む利用者については、声かけ等を工夫しながら支援している。また、入浴を楽しめるよう入浴剤を準備し、自分で選んでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望やこれまでの生活習慣を大切に、入床や起床は個々に合わせている。休息も体調に合わせて職員が促すこともあるが、本人の希望に添って休みたいときに休めるような、環境づくりにも努めている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬についての知識を深め、利用者に薬の変更があった際には、副作用の出現や、本人の状態の変化を把握できるように努めている。また訪問看護にも情報を提供し、薬についての相談や助言を受けようとしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望を尊重しながらも、これまでの生活歴や本人の力を活かせるような役割や楽しみをもっといただけるように支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍ではあるが、予防対策をしっかりとすうえで、少人数のドライブなどは行っている。また、本人の希望を可能な限り実現できるように、家族とも連絡を取り合いながら支援している。	コロナ禍で外出する機会が少なくなっているが、少人数で外出する機会を設けるよう取り組んでいる。季節を感じてもらうため、近所に散歩に出かけ、咲いている花を見るなどして楽しんでいる。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	現金を所持し、近くの自販機で飲み物を購入したり、スーパーで嗜好品を購入されている方もいる。本人での管理が難しい方でも、預り金の中から希望の物を購入できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方が2名、オンライン面会用のタブレットを所持している方が1名いて、家族や親戚の方とやり取りをされている。その他、利用者には家族との連絡はいつでも可能な事を伝え、希望時には取り次ぎを行っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝、昼、夕と3回掃除の時間を設けて、利用者が不快に思わないように配慮している。気温や室温、明るさの調整はもちろん、季節を感じれるような壁絵や花をかざり、居心地のいい空間となるように工夫している。	ホーム内には、空気清浄機が設置されている他、1日3回掃除を行い衛生管理が徹底されている。廊下には、行事の写真や花が飾られている他、壁紙は季節が感じられる配色で穏やかに過ごせる環境となっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置しており、気分に合わせてここでお茶を飲んだり、新聞を読まれる方もいる。自分の好きな場所に座りテレビをみたり、お決まりの場所に座り一息つかれたり、思い思いに過ごせるような工夫をしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みに関しては特に制限してはいないため、安全面に配慮したうえで馴染みのものや、使い慣れたものを置いていただきその人らしく、居心地のいい空間ができるように配慮している。	入所する前の環境で生活が送れるよう、カーペットや座椅子を持ってきて床に座って過ごしている利用者もいる。レイアウトについては、安全に過ごしてもらえるよう本人や家族と相談しながら決めている。花をイメージした造りになっていて落ち着いた生活が送れる環境である。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の案内表示を工夫したり、居室内も一人一人に合わせて配置をかえている。またお茶を飲みたい時に飲んでもらえるよう、常にホールに置き、安全面に配慮しつつもできる方にはやっていただけるような支援をしている。		